

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

福島

高等学校

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>「正しく、強く、美しく生きる」という精神を胸に、地域を担う人材を育成する学校 多様な個性を持つ仲間との体験的な学びを通して、地域の中で正しく、強く、美しく生きる力を身に付け、社会に貢献する高い志を持ち、よりよい社会の実現のために行動できる人材を育成します。</p>		
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識・技能や思考力・判断力を発揮して物事を多角的・俯瞰的に捉え、課題を見出せる生徒 ・他者と協働し、創造的に課題解決に挑み続けることができる生徒 ・自他を認め、社会に貢献する志を持ち、よりよい社会の実現のために行動できる生徒 	
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎から応用へと確かな学力を身に付ける ・専門教科における実学・実習の重視による高い専門性 ・教科横断的・課題解決型の授業実践と学科間連携を通して多様な学びの保障 	
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的自立・成長を図り、人間性豊かで、規範意識の涵養に努める人 ・継続定かつ意欲的に学習し、積極的に行動できる人 	

学校運営計画(4月)

学校運営方針	年度重点目標		評 (総)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>〔成果〕 ・コロナ禍において培った新たな視点や工夫を大切にしながらの学校行事の実施。「福島高校は生徒が伸び伸びと学ぶことができる学校である。」という地域からの評価。生徒の学校生活に取り組む意識の高揚。生徒が生き生きと活動する場の提供、並びに主体的に取り組むような様々な仕掛けによる生徒の成長。 〔課題〕 生徒募集に係るより効果的な広報活動の推進。普通科の特色や成果のアピール。学科間連携による、本校独自の教育活動の充実。生徒に確かな学力を付けさせ、進路希望を実現できる学校としての教育内容の充実。</p>	<p>「自ら考え、自ら判断し、チャレンジする」態度の育成及び他者と協働し課題解決に挑む態度の育成</p>	<p>良質かつ本質的な問いかけや個に応じた指導を通して、「自分には何ができるか」と主体的に考え、判断し、行動に移す態度、及び他者と協働し課題解決に挑む態度を全ての教育活動を通して育成する。</p>	
	<p>「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」を中心に据えた、より組織的な教育活動の充実</p>	<p>生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、教員は個別最適な学び、協働的な学びにつながる授業を実践することにより、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図るとともに自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。授業と評価方法の改善により、指導と評価の一体化を図ることで、生徒の個性や能力を引き出し、生徒の第一希望進路の実現を目指す。</p>	
	<p>学科間連携の強化及び関係機関との連携強化による地域に開かれた学校づくり</p>	<p>学科間連携の学校設定教科・科目を充実させるとともに、学科の特徴や強みを生かした活動を有機的に連携させる。本校の特色ある教育活動を通して、生徒により広い世界を体験させるとともに、地域社会との連携強化を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	
	<p>生徒の人権意識の向上及び安心・安全な学校づくり</p>	<p>人権教育を推進することにより、生徒の人権意識を向上させ、違いを認め合い、自分自身と他者を大切にする心豊かな人間性を育む。ICTの積極的活用を通して、生徒理解や個別最適化された授業の実践及び業務の効率化を推進し、生徒と教員が心身ともに健康で安心して過ごせる学校づくりに努める。</p>	

自己評価

学校関係者評価

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等	評価(3月)	結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
<p>教育推進部 (教務課)</p>	<p>確かな学力の修得 (基礎的・基本的な知識・技能の修得)</p>	<p>個別最適な学び、協働的な学びにつながる授業の実践を企画・研修課と連携して行う。 集中講座及び補習の内容を充実させ、知識・技能、技術の向上を図る。 学習時間調査(年4回)を実施し、自ら学ぶ姿勢を主体的に振り返らせる契機とする。</p>	<p>(学習時間調査11月)1年97、2年88、3年97(分/1日)いずれも過年度及び前回(9月)より増</p>	<p>B B A</p>	<p>集中講座及び補習については、今年度は小論文の導入(1年)、科目の精選(2年)等、生徒の実態に合わせて改良し、内容の充実につなげることができた。 学習時間については、勉強が分かるように努力している生徒(84.3%)の家庭学習をさらに伸張させ、各学年ともに目標120分を満たすよう、個別最適な学びにつながる授業実践を促進させていく。</p>	<p>A</p>	<p>・生徒の実態に合わせた改良により、確かな学力の習得が図られている。家庭学習前回は上回っている。 ・さらなる学力向上のための取り組みを期待する。</p>
	<p>本校独自の教育活動の充実</p>	<p>各科の特徴を生かして学科間連携教科・科目の充実を図る。 各教科が育成を目指す資質・能力を明確にし、評価方法を検討して適正な評価を行い、評価の妥当性、信頼性を高める。 観点別評価の改善により、授業と評価の一体化を図り、多様な資質を持つ生徒を多面的に評価する。</p>	<p>(授業アンケートより)個別最適な学びの「指導の個別化」と「学習の個別化」の実践の促進(1・2学期平均20例)、授業で学ぶことに関心がある生徒96%</p>	<p>A B B</p>	<p>昨年年度開講した学科間連携科目については、各科目ともにブラッシュアップさせ、多様な学びを展開できた。一方、教育課程の完成年度であった今年度、学科間連携科目を含めていくつかの改善点が明らかになった。次年度は、本校の教育活動をさらに充実させることができるよう、各教科や各委員会と共通理解を図り、長期的な視点を持った教育課程と、適正な評価方法を確立していく。</p>	<p>A</p>	<p>・学科間連携科目では、ブラッシュアップによる多様な学びが展開され、改善点の洗る。</p>
	<p>生徒が主語(中心)になる「総合的な探究の時間」の授業づくり</p>	<p>単元毎に育成する力を明確にするとともに、指導体制を整備して、生徒自ら探究活動ができる環境づくりを設定する。 推進委員会を中心として「総合的な探究の時間」を円滑に運営する。(早めの計画立案、密な連絡調整) 自ら学びたい分野を選択し、地域の外部機関との連携を強化して、探究活動を充実させる。</p>	<p>3学期終了時点でアンケートを実施予定</p>	<p>A A B</p>	<p>定期的委員会を開き、学習内容等を確認しながら進めいくことができた。今年度から新たに2学年よりゼミ方式による学習形態を行い、専門分野について深く探究する方策を行った。また、3学年では、一日現地調査を行い、これまで行けなかったところにも調査することができ探究の幅を広げることができた。次年度はさらに充実したものとするため、他の学科の協力を得て研究分野を広げていく。</p>	<p>A</p>	<p>・ゼミ方式の学習形態による専門分野への学習活動は、創意工夫が図られており、</p>
<p>教育推進部 (入試・広報課)</p>	<p>本校の魅力が伝わる組織的な広報活動</p>	<p>進路相談事業や体験入学において、生徒主体の魅力あるプレゼンを実施する。 出前授業や学校説明会に積極的に出向き、本校の魅力を発信する。 学校HP、SNS等の迅速な更新を行い、本校の魅力を伝えるとともに、本校教育活動への理解を図る。</p>	<p>体験入学のアンケートより、保護者説明より各学科の授業が見えたこととの意見あった。</p>	<p>A A A</p>	<p>進路相談事業では、本年度から生徒主体による体験型ブースを設け、各学科の特色を生かした紹介を行うことができた。体験入学においては、今年度より1日開催により多くの中学生に対しての対応策を来年度に向けて検討する必要がある。また、新たな試みとして体験入学とは別にイベント体験ツアーを実施、きめ細かな対応ができたので来年度もさらに実施していく方向で考えている。</p>	<p>A</p>	<p>・進路相談事業における体験ブースなどは魅力ある広報活動になっている。 ・多くの中学生に来てもらうために、体験入学の開催日を増やす検討をしてほしい。 ・夕方から夜にかけてのイベントツアーという企画は体験入学を魅力的なものにする。</p>
	<p>効果的な広報活動のための情報収集</p>	<p>広報活動の分析を行い、中学生や中学生保護者に向けた広報活動を積極的に行う。 新入生アンケートや2、3年生向けの満足度アンケートを行い、広報活動の改善に生かす。 中学校訪問を通して本校の魅力を発信しながら生徒の情報交換を行い、中学校との連携を図る。</p>	<p>中学校来校アンケート(星野、広川、筑後北、羽犬塚等)訪問の目的は、学校の雰囲気が多く、おおむね参考になったとの回答を得た。</p>	<p>B B B</p>	<p>中学生や中学生保護者への広報活動として、各中学校に出向き、説明や体験授業を通して、本校の教育活動を紹介することができた。また、本校の学校見学も多くの中学校に出向いていただき、普段の学校の様子を紹介することができた。課題として、食堂利用をどのようにアピールできるか検討が必要である。SNSを利用した広報活動は今後も定期的投稿して本校の良さを知ってもらう機会としていく。</p>	<p>B</p>	<p>・積極的に素晴らしい活動をされていると思う。 ・今後もSNSやウェブを積極的に取り入れ、情報収集並びにPR告知に使用してほしい。</p>
	<p>計画的で協働的な業務の遂行</p>	<p>分掌会を定期的に開催し、全員が責任感を持ち、チームで業務に取り組む。 他の分掌と連携を図りながら業務を進め、学校全体で入試・広報活動を行う体制を整え、効果的なアピールを行う。 各行事のスケジュールを確認し、担当割や準備物の共有を計画的に行う。</p>	<p>△</p>	<p>B B B</p>	<p>事前準備にもう少し時間をかける必要があると感じている。特に入試業務等に関しては受検日程の前倒しにより、かなり担当者に負担をかける部分があるので改善していく必要がある。 現在、他の分掌と協力関係を構築することがむずかしく、行事ごとにプロジェクトチームを編成して、協力体制を強化する。</p>	<p>A</p>	<p>・チームによる業務の効率化や協力体制の強化を図って働き方改革を鑑みた業務負担がかからない工夫が必要だと思います。</p>

キャリア教育部 (進路指導課)	キャリア教育の更なる充実による「夢を描き努力し続ける生徒」の育成	進路講演会や進路ガイダンス、上級学校・企業訪問、卒業生講話等を充実させ、進路意識の向上を図る。	振り返り/感想文	A	B	B	進路に関する行事(進路講演会、各学年の進路ガイダンス、1・2年の上級学校訪問)をとおして、生徒の進路意識の向上を図るために様々な情報を提供できた。希望進路が未定のまま進級する生徒が多いため、進路について考える機会を今後も作る必要がある。次年度に向けて、Classiの学習ツールとしての機能を活用し、生徒の学習習慣の定着につなげたい。	B	・classiの機能を積極的に活用してほしい。特に生徒だけでなく教諭や保護者等もツールとしての有効に活用してほしい。 ・今後も、生徒の進路意識の向上のために情報提供をお願いしたい。	
		「Classi」を活用して学校行事や進路学習等の見通しと振り返りの場を設定し、進路や自己の生き方を考える一助とする。		B						
	ボランティア活動及びインターンシップ等の体験活動並びに日頃の清掃活動を通して勤労感を涵養する。	B								
	小論文指導体制の強化とその指導の充実を図り、希望進路実現に必要な「読む力」「考える力」「書く力」を伸ばす。	B								
第一志望の進路実現に向けた心構えの育成と資質能力の向上	3年生の希望者を対象とした放課後講座及び模試の実施・結果分析を通して、希望進路実現に必要な学力の向上を図る。	就職・公務員希望者を対象に、外部講師を招聘したガイダンスや特別講座、面接指導等を計画的に実施して、必要な能力を伸ばす。	/	B	B	B	小論文指導においては、先生方の協力のもと各生徒の志望校に合わせて担当教員を決めて指導を行うことができた。就職・公務員希望者には校内での二者面談、外部講師による特別講座や面接指導等を計画的に進めることができた。推薦入試や総合型選抜入試での受験を希望する生徒が増えていることから、小論文指導を1・2年の早期から始める必要がある。	A	・小論文指導について、大学入試や企業面接試験に採用されており早期に学習できる。	
		「進路のしおり」の内容の充実を図り、進路選択やその実現に資する情報を早期に提供すると共に、進路指導へ有効に活用する。		B						
		「進路のしおり」の発行や進路冊子の配布の配布等の進路委員を中心とした組織的な取組を通して、進路への関心を向上させる。		B						
進路選択及びその実現をサポートする情報の収集と発信	進路指導課会議を定期的に開催し、情報を共有するとともに組織的な進路指導の更なる充実を図る。	「進路のしおり」の内容の充実を図り、進路選択やその実現に資する情報を早期に提供すると共に、進路指導へ有効に活用する。	/	A	B	B	「進路のしおり」は内容を見直し、必要に応じて加筆・修正を行った。進学・就職・公務員と希望進路が多岐に渡っているため、どの項目もアップデートを行い、最新の情報を提供できるように心がけた。進路委員には進路関係行事の司会や運営にも携わる機会を作り、集団の中での役割を自覚し、責任感を養うことができた。進路指導課会議を定期的実施し、情報共有を図る。	A	・「進路のしおり」の見直しやアップデートを行うことで、進路情報の提供がうまくな	
		「進路のしおり」の発行や進路冊子の配布の配布等の進路委員を中心とした組織的な取組を通して、進路への関心を向上させる。		B						
		進路指導課会議を定期的に開催し、情報を共有するとともに組織的な進路指導の更なる充実を図る。		B						
キャリア教育部 (企画・研修課)	生徒・教員の成長を促すとともに充実感をもたらす行事の実施	各行事を行うにあたり、教員側と生徒側の目的・目標を明確にすることで内容の質を高める。	振り返り/感想文	B	A	A	各行事を行うにあたり、生徒の取り組み方に差がある。生徒会の生徒は自ら運営に関わる場面が多く意識も高いが、受身の生徒が少なくない。要項の掲示だけでなく、朝礼や終礼で目的や目標について説明を行い、各行事の意義を考えさせることで内容の質を高めるようにする。振り返りや感想文については次年度の改善に活かす。	A	・魅力的な行事の計画・運営をお願いしたい。	
		各行事の計画を早期に立てるとともに急な変更等にも柔軟性を持って対応する。		A						
		他分掌・係と綿密に連携を取り、充実した行事となるよう取り組む。		A						
	各教科でICTを活用した授業を行い、効果的な方法等については全職員で共有する。	B								
授業改善及び図書館の有効的な活用	校外・校内研修を積極的に授業改善に活用する。	図書館に関するアンケート(生徒対象) 2月実施	/	B	B	A	ICT活用の効果的な方法については、教科内の共有までで全職員までは至っていない。職員室内の掲示板やポータルを活用していきたい。校内研修の精選を行っていく。アンケート結果を改善に活かす。	B	・ICTの効果的な活用方法に引き続き取り組んでほしい。	
		校外・校内研修を積極的に授業改善に活用する。		B						
		教員・生徒の意見を取り入れ、図書館の有効的な活用方法を模索し、図書館の積極的な活用につなげる。		B						
「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」を活用した教育活動の充実	「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」に関する研修を実施する。	研究授業や授業アンケートを活用し、「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」の充実につなげる。	授業アンケート実施率99% 授業改善に活用できている。	A	A	A	今年度から「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」への取り組みが始まった。研究授業や授業アンケートを活用し、取り組みについて全職員で情報共有するようにしている。	A	・生徒の主体性を育む上でも素晴らしい取り組みだと思う。	
		研究授業や授業アンケートを活用し、「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」の充実につなげる。		A						
		校内・校外の効果的な実践等を、全職員で共有する。		B						
生徒育成部 (生徒指導課)	問題行動0・いじめの撲滅	いじめアンケートの実施と教育相談委員会等による情報の共有化を図る。	いじめアンケート・学校生活アンケートを毎月実施したことにより、気になる生徒への早期対応ができた。	A	A	A	いじめアンケートと教育相談委員会において生徒の情報を共有することで、大きな問題行動や、いじめ問題が起きなかった。警察と連携して講習会を開き、規範意識を育成することができた。スマホケータイ教室を実施することにより、SNSによるトラブルが減少した。	A	・定期的なアンケート等の実施による成果であり、高く評価できる。	
		規範意識育成の講習会実施及びDVD視聴等により正しい行動ができるように指導する。		A						
		SNSによるトラブルを未然に防ぐための講習会を実施する。		A						
	部活動・生徒会活動の活発化	顧問会議・研修等で顧問の意識を高めて、生徒の能力を最大限に発揮させる指導を行う。部活動生が学校の中心となるように部員の意識を高める指導を行う。	顧問会議・研修等で顧問の意識を高めて、生徒の能力を最大限に発揮させる指導を行う。部活動生が学校の中心となるように部員の意識を高める指導を行う。	/	B	A	A	部活動については、公務多忙等で十分な指導ができなかった。生徒会担当の指導により、学校行事の充実を図ることができた。生徒会長を中心とした、生徒会執行部の意識を高めることにより、体育大会・福高祭等の学校行事を主体的に取り組むことができた。	A	・生徒会などのリーダーの育成をお願いします。 ・先生方の働き方改革が心配です。
			体育大会・福高祭の内容を検討し生徒が主体的に取り組むようにする。		A					
			リーダーの発掘と育成に力を入れ、体育大会・福高祭を充実させる。		A					
交通事故0・交通マナーの向上	登下校指導の実施し、交通マナーの意識を向上させ、交通事故0を目指す。	登下校指導の実施し、交通マナーの意識を向上させ、交通事故0を目指す。	/	C	B	A	バイク実技指導、交通安全指導の実施により、交通マナーの意識は高まった。登下校指導ができる体制づくりが十分でなかった。	A	・交通安全のために、さらに取り組んでほしい。 ・福島高校名物の長い坂道「青春の坂」の指導を、今後もよろしくをお願いします。	
		安全教育講習会やバイク実技講習会を実施し、安全に関する意識の向上を図る。		A						
生徒育成部 (健康管理課)	生徒及び職員の心身の健康の保持増進	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒の身体状況の基礎的な把握を行う。	各種健康診断では問診票による調査や行事前の健康相談等も確実に実施し、生徒が健康かつ安全に生活できるよう体制づくりができた。その結果として各種アンケートに大きな問題なども挙げられていなかった。	A	A	A	課で担当する各種健康診断や事前健康相談等の業務を確実に実施することができた。今年度は生徒における新型コロナウイルスやインフルエンザ感染は散発的であったため、学級閉鎖などを行わずに済んだ。保健だより(月1回の発行)を発行し、健康や事故防止のための注意喚起を行えた。性の健康講話を実施し、生徒は興味深く話を聴き、「思春期における性に関する正しい知識を身に付けることができた。今まで知らなかったことを聞くことができた。子宮頸がんワクチンの接種について親と相談したい。」などの感想があった。	A	・職員の健康診断(再検査)は実施を確実にしてほしい。	
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。		A						
		コロナやインフルエンザ等の感染症に見通しをもって対応する。		A						
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行う。		A						
		性と心の相談事業(1年生対象に性の講演会)を実施する。		A						
	学校管理下での事故防止の徹底	生徒保健委員による救急法(含む熱中症対策)講演会を実施し、部活動や体育的行事における安全対策を充実させる。	校内美化や防災避難訓練、また危機管理マニュアルの整備等を行い、生徒たちが落ち着いて学校生活を送れるようにした。学校生活アンケートにも学校生活上の支障などの回答はなかった。	/	B	A	A	生徒保健委員による熱中症講演会の実施は、残念ながら行えなかった。危機管理マニュアルの見直しを行い、職員への周知徹底を図り、危機管理体制を整えることができた。防災避難訓練を実施し、生徒や職員の防災意識の向上につなげることができた。学校の校内安全点検を行い、危険箇所について修理改善を行うことができた。	A	・職員向けの救急法の研修で、実際に起こった場合に対応できるようにしてほしい。 ・職員への危機管理マニュアルの周知徹底をお願いしたい。
		生徒美化委員を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。	A							
		防災避難訓練を充実させ、防災意識の向上を図る。	A							
		学期に1回の校内安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに担当部署に連絡・働きかけを行う。	A							
		社会の変化に対応して危機管理マニュアルを継続的に見直し、職員への周知徹底を図り、危機管理体制を整える。	A							
担任・学年・教育相談委員会の連携・協力体制の確立	様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。	定期的な教育相談委員会の実施や各学年、クラスにおけるアンケート、並びに聞き取りにより、生徒間の小さなトラブル等があったが、担任によるフォローなどにより生徒たちの見守りはできている状況である。	/	A	A	A	月1回の教育相談委員会を確実に実施することができた。また、SCやSSWとの連携も積極的に行うことができた。今後も今までの活動を継続し、生徒の安心・安全な学校生活を守る活動となるようにしたい。生徒の保健室利用状況報告を担任に渡し、担任と保健室の連携を深めることができた。SC.SSWと連携し、問題を抱える生徒のケース会議を行い、担任、保護者と関係部署をコーディネートすることにより、生徒対応をスムーズに行うことができた。	A	・安心して学校に通えるや体制づくりがなされている。	
	生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。	A								
	3日連続欠席者に対して、実態に応じて担任・学年団により家庭訪問を実施するよう働きかける。	A								
	SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。	A								
	修学支援・特別支援コーディネーターによる業務を支援する。	A								

第1学年	基本的生活習慣の確立	明るく元気な挨拶をする、時間厳守(5分前行動)、遅刻厳禁、服装を整える、清掃を丁寧に、提出物を期限内に提出する、などの当たり前のことのできるようにし、習慣化させる。 当たり前のことをおろそかにせず、しっかりやる、を合言葉に学年団全員がこだわって生徒の指導を行う。	服装頭髪指導(1月)78%がしっかりできている。再々指導者は1名	B	B	朝のHRや集会における集合状況などは良いが、提出物については、担任や教科担当が粘り強く声掛けをしながら提出をさせている状況である。出さない、出せない生徒の背景を探りながら個別に対応していきたい。	A	・個々に応じた学習習慣の指導がなされている。 ・提出物が出せるように指導をお願いしたい。
	学習習慣の定着と基礎学力の向上	教室整備を行い、授業前の黙想に十分な間をとらせ、心を落ち着かせて授業に臨ませるなど、授業に集中できる環境や雰囲気を整える。 各教科と連携して小テストや課題など家庭学習時間を増やす取り組みをし、基礎・基本的学習内容の習得を図る。 学習時間の記録を毎日行わせ、家庭学習時間1日平均90分以上を目指す。	(学習時間調査)定期考査前の学習時間平均値98分	A	B	学習時間の記録を毎日行わせることは現実的ではなかった。定期考査前、定期考査期間中の学習時間記録は行うことができ、平均90分以上を確保できていた。しかし、普段から学習時間を増やすことができるよう科目担当と連携を図る。	A	・学習時間が確保できており、落ち着いた学校生活の様子をうかがうことができる。
	進路目標の早期設定	生徒自らが情報収集できるように、方法等を指導する。 HRや面談週間・三者面談などを通して、生徒の進路目標の早期設定を促す。オープンキャンパスなどへの積極的な参加を促し、生徒の進路意識の向上を図る。	進路ガイダンス資料請求10校以上の生徒が85%	B	B	進路講演会や上級学校訪問等で進路意識の向上を図ることができた。学校のパンフレット等の資料請求をさせたが、しっかり読んでいる生徒と、放置している生徒がいる。見比べたり書かせたりする機会を設ける必要があった。2年次にはオープンキャンパスやインターンシップなどのリアルな体験を多くさせたい。	B	・進路意識の向上に加え、自ら情報収集できるような工夫がなされている。
	安心安全な学年、学級	価値観の違いを認め合い、互いの個性を尊重し合えるように教師自ら率先して行動するとともに、常に人権を意識した発言を行う。 アンケートや生徒の様子をしっかり観察するなどして、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。いじめは絶対許さないというメッセージを教師が発する。	(学校生活アンケート8月)学校生活が楽しい項目にととでもう思う、ときどきそう思う生徒が92%	B	B	大きなトラブルは起きていないが、人間関係に悩む生徒は一定数いた。また、他者の発言で嫌な思いをしている生徒も一定数いた。人権学習だけでなく、様々な場面でいじめは絶対に許さないというメッセージを教員から発信する。また、生徒の自己肯定感を上げるような取り組みを行いたい。	A	・他者の発言で嫌な思いをしている生徒が一定数居ることが気になる。 ・生徒の自己肯定感が上がる行事や取り組みをお願いしたい。
	学年団のチーム化と保護者との信頼関係の構築	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の支援・指導をしていく。 保護者の悩みや想いに共感し、連絡を密にして学校と家庭が同じ方向を見て生徒の指導にあたる。	保護者いじめアンケートでの記述内容を確認	B	B	学年会議での生徒の情報共有をしっかり行い、学年として生徒指導にあたることができたと感じる。教員の得意分野を生かした生徒への個別指導を行いたい。また、担任が保護者としてしっかり連絡を取りながら生徒の悩みに向き合うことができた。	A	・学年団のチーム化による共通理解が図られた生徒指導がうかがえる。
第2学年	メリハリつけて、当たり前のことを当たり前	挨拶する・時間を守る・約束を守る、の当たり前のことを教員が率先して行い、生徒に模範となつて示し、生徒に実践させる。 遅刻・欠席・風紀違反の多い生徒に対して、学校や家庭での様子の連絡を密に行い、学年全体で協力して指導する。(違反者の減少、皆勤50名以上) 学年行事・学校行事を通して、リーダーの育成を行い、学校を支えていく集団にする。	(服装頭髪検査)違反者20/144前回(9月)より減	B	B	1年間を通して、出席状況は概ね良いが、各クラスの中で遅刻や欠席をする生徒が固定化されつつある。その生徒に対して担任・副担任だけでなく、その他学年教員からも積極的に声掛けを行い、教室が居場所となるように前向きに登校できるようにしていきたい。また、次年度の受験に向けて身だしなみ、挨拶などの基本的なマナーを再度呼び掛けていきたい。	A	・多くの社会人や先輩の声を聴くことを学習に取り込んだらどうか？中だるみを外部与えるのも一つの方法と思う。 ・積極的な声掛けが行われており、生徒の居場所づくりをお願いしたい。
	学習時間の向上と学習習慣の定着、そして学力向上	担任・副担任指導の下で学習時間の記録、各授業担当者による適切な課題の設定、学年で課題一覧表の作成を行い、学力の向上に努める。 教室整備・チャイム席・授業準備・課題提出の期限厳守を徹底し、学習に集中できる環境を整える。	(学習時間調査11月)2年88(分/1日)過年度及び前回(9月)より増	A	A	1年次と比べると、生徒の家庭学習時間が減っている。それに伴い、様々な模擬試験で成績の伸び悩む教科・科目も出てきた。次年度へ向けて、各教科担当からの呼びかけを積極的に行うとともに、適切な課題の提示、演習量を増やすなどの工夫が必要だと考える。	B	・学習時間は、過年度及び前回より増えている状況を今後につなげてほしい。
	進路目標の設定、実現に向けて計画・実施	進路ガイダンス・上級学校訪問の実施、オープンキャンパスへの参加を通して、生徒に生きた情報を伝え、進路目標の契機とする。 スタディーサポートや進研模試などの外部模試を利用し、生徒の学習状況を把握しながら、二者・三者面談の充実を図り、多様な進路目標の実現に繋げる。	(スタディーサポート8月)124点/300点前回(4月)より増	A	B	希望進路未定の生徒が多く、進路意識がなかなか上がっていかない1年間だった。しかし、3学期に入ると自己の希望進路先や将来について真剣に考える生徒が増えていたようにも感じた。1年後、全員が希望進路を実現できるように、担任・副担任を中心に二者面談や進路ガイダンスなどクラス生徒に対する進路指導も細かく実施していきたい。	A	・オープンキャンパスなどの進路決定のための情報提供を積極的に行うことで、進路が実現する。
	教員の意識改革と連携	学年教員団全員が、学年生徒の学習面・生活面の指導をするような意識を持ち、実践できるよう、的確なアドバイスや助け合いを行う。 学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。	(学校生活アンケート8月)学校生活が楽しいと感じる生徒75/144前回(5月)より増	B	B	クラス担任がよく生徒観察、保護者への連絡を行っていたおかげで、大きないじめ問題が起こることなく、安全・安心な教育活動を行うことができたと思う。しかし、問題行動や人間関係のトラブルが数件あった。起こってからの指導ではなく、日ごろの学校生活の中で、自分の行動や言動、コミュニケーションの取り方について指導を行い、未然に防げるようにしていきたい。	A	・学校生活が楽しいと感じる生徒が前回より増えているのがよい。
第3学年	基本的生活習慣の確立と学力向上 落ち着いた学習環境づくり	挨拶の励行、時間の厳守、服装を整える、清掃をきちんとするなど基本的なことを徹底して指導する。 授業の充実・家庭学習の充実に加え、各教科との連携を行い学力を向上させる。また、成績不振者の把握と指導を徹底する。 教室環境の整美並びに毎時間の行動(チャイム席、授業準備、黙想等)をきちんと行わせる。	授業アンケートは教員が個人で取っているため全体像は見えにくい。生徒の授業満足度は概ね高く、チャイム席は9割以上守られている。	B	B	基本的生活習慣がなかなか身につかない生徒が一定数おり、指導を重ねているが、改善できない者もいる。挨拶はよくするが、提出物の締め切りなどの厳守ができない生徒も多い。進路を意識し、家庭での学習時間が増えた生徒が多く見られ、進路実現に繋がった。チャイム席、黙想などの授業に対する姿勢は、全てのクラスで良好な状況である。	A	・基本的生活習慣が身につかない生徒の継続的な指導をお願いします。
	生徒の進路実現 情報の分析と個に応じた進路指導	面談を活用し、進路学習やオープンキャンパスなどへの積極的な参加を促し、受験生としての意識を向上させる。 最新の進路情報について教員自身が学び、適切な進路分析を行うことで、生徒に対して細かい情報を与え、進路実現への道筋の立て方を共に考える。	進路調査アンケートでは1学期時点で自分の進路希望を確定した生徒が8割。	A	B	本学年から新課程での入試になることを踏まえ、変更点や留意点を確認し、指導することができた。生徒は教員によく相談し、確認をしながら準備を進めることで、進路決定、出願時にも大きな混乱はなかったが、担任の確認など、手がかかることが多かったため、早めから自覚を持たせることが必要。	A	・個に応じた進路指導が実践されている。
	生徒の居場所づくり 生徒の主体的活動を図る方策 集団と個の確立及び協働精神の育成	いじめアンケートや学校生活アンケートを活用し、「安心・安全な学校」づくりの実現を目指す。 生徒を学年行事の企画・運営に関わらせ、学校行事への積極的な活動に繋げさせる。主体的な活動を通して、生徒の連帯感や自立心を育成する。 各科の特色を明確にするとともに、学年全体で取り組むべき内容については一緒にやり遂げる達成感・充実感を味わわせる。	いじめアンケートではいじめや訴えた生徒はなし。学校生活アンケートでは8割以上の生徒が「学校生活が(とても・時々)楽しい」と回答。	A	A	様々な特質を持った生徒が在籍するが、それぞれの居場所作りは適切にできていた。一律に同じ指導をするのではなく、生徒の特質を考慮した上で、本人、保護者への対応を行うことができた。体育大会を経て、真のリーダーシップとは何かを理解し、大きく成長した生徒が多数見られた。	A	・安全安心な学校づくりと主体的な活動による生徒の連帯感や自立心の育成が図られた。
	教師間・学年団及び保護者との連携強化	学年団(特に担任団)でこまめに話し、生徒の人間関係や進路希望について学年全体で把握をし、的確なアドバイスや助け合いを行う。 保護者と密に連絡を取り合い、生徒の出席状況、成績、学校での様子、家庭での様子等、相互に把握し、生徒の精神的安定や進路指導に繋げる。	保護者いじめアンケートでは1年間を通して、保護者対応が必要だったのは1件。	B	B	大きなトラブルはほぼなかった。アンケートを通じて保護者からの要望や意見が出た際は、迅速に保護者との面談を設定し、話し合うことができた。生徒と保護者の状況を、学年全体で共有することが大きな鍵になる。	A	・迅速な対応がなされていることで、課題の解決が図られている。

総合ビジネス科	基礎学力の定着と論理的思考力を育成	生徒の希望進路実現の目標を明確にし、生徒の資質を伸ばす。	(授業アンケート) 目標とする資格の取得率が1・2年生で80%以上を達成できた。	A	A	放課後勉強会や土曜講座等で、資格取得の結果を出せた生徒が多く、目標の80%を達成することができた。四年制大学への進学方法を、校長会推薦や総合型推薦入試などにより、多くの進学者数を増やすことができた。コース別の進路も、ほぼ実現できた。しかし、3年生の3種目1級の取得者が少なかったため、来年度は増やすように、担当で指導していくようにする。	A	・放課後勉強会や土曜講座は高く評価でき資格取得率の目標達成につながっている。 ・資格取得率の向上や4年制大学への進学者の増加など、大きな成果を上げている	
		全商の検定2・3級は、合格率90%を目指し。さらに高度な資格を目指し、社会に貢献できる資質を身に着ける。		A					
		将来の進路目標を考え、自分自身でコースを選択する能力を身に着ける。またより高度な専門教科を学ぶ機会を設け、進路決定に役立てる。		B					
	キャリア教育とビジネスで活躍する職業人育成	各学年に応じて進路目標の明確化を図り、体験活動やキャリア教育を推進し、生徒の勤労観・職業観を育成する。	学科の行事を経験しながら、地域経済の発展に関心を持たせ、生徒自身も成長できる意識を育成する。		B	B	社会人講師を招き、ビジネスマナーを学び、倫理観を養うことができた。また、久留米大学との協同授業では、商学や経済学の専門的な内容を大学生と学ぶことができ、進学意欲を高めることができたので、継続したい。商業部会のデザインコンテストや商業経済論文でも入賞者を複数出すことができるなど、コース別の結果を出すことができたので、下級生にもつなげたい。学校設定科目でも、ボランティア活動に参加し、学校行事に貢献する意識を育てることができた。	A	・効果的なキャリア教育が行われている。
			キャリア教育をとおして、社会で活躍する人材を明確にし、未来の職業人として、また地域経済に関心を持つ生徒を育成する。		A				
			各学年の学習活動や進路状況を「総合ビジネス科ニュース」情報発信する。	(授業アンケート) コース別の校外学習が、良い経験になり、進路決定に繋げることができた。	A				
地域社会との連携と広報活動の充実	総合ビジネス科の学習内容を出前授業や進路説明会等で説明する。地域活性化のために、独自の地域マップ作りを行う。	地域の祭りや販売イベントに積極的に参加し、体験的な学びを経験し、その学習成果を学科発表会で発表し、意識を高める。		B	B	新たに、総合ビジネス科通信を発行し、保護者や中学生向けに、総合ビジネス科の学校での様子を知らせることができた。地域の企業や八女市役所からのボランティア活動の依頼にも、協力することができた。地域のOBの卒業生の方達に多く声をかけていただき、地域貢献と触れ合う機会が持てた。また、地域ビジネスの学習内容は、公務員への関心にも役に立った。	A	・中学生に向けた情報発信が図られている。 ・コース別の校外学習が進路決定にもつながっているように思う。	
		科目における生徒の目指すべき資質・能力を明確にし、その育成のために授業改善を図る。	家庭科技術検定各分野1～4級合格率93%	A					
		家庭科技術検定コース別合格率90%以上を目指し、受験を通して社会で求められる資質・能力の育成を図る。		B					
生活デザイン科	学科における専門性の向上と各コースにおける実践力の育成	3つのコースの特色化と外部講師を活用した専門性の向上を図り、卒業後も自らの力を発揮できる実践力を育成する。		A	A	学科の専門性では、外部機関や社会人招聘事業などを活用した授業実践により、生徒の意欲が高まり、知識・技術の習得と向上に繋がった。多様な学びの機会を創出し、生徒が活躍出来る取組を継続的に計画する。資格取得では、コース別において合格率に差が見られたことから、指導力の向上と指導の統一化、評価規準の共通理解を図る。	A	・特徴ある学校のスタイルに貢献できており、各分野の検定試験の合格率が高い。	
		各学年に応じて進路目標の明確化を図り、体験活動やキャリア教育を推進し、生徒の勤労観・職業観を育成する。	ものづくりマイスター派遣事業アンケート(2・3年)実技指導が役に立った回答95%	B					
		学科行事を通して、自他を認め、地域に貢献する志を持たせ、粘り強く学び続ける力を育成する。		A					
	キャリア教育の推進と職業人としての資質の獲得	学科間連携科目「八女茶探究」において、学科の特徴を生かして多様な学びの場の設定と学習活動の充実を図る。	地域行事や未来を切り拓く人材育成事業を通して、キャリア教育を推進した結果、学科での学びが進路実現に繋がった。また、異年齢や多様な職業の方と接する機会が、社会人としての責任感や人と関わる力を向上させた。学校設定科目「八女茶探究」では、地域との連携を強化し、計画的に学習活動の充実を図る必要がある。		B	B	A	ものづくりマイスター派遣事業が効果をあげているように思う。	
			地域行事や地域交流の在り方を検討し、地域の外部機関との連携を強化して、生徒の主体性を向上させる活動を実践する。	未来を切り拓く人材育成アンケート 回答:交流を通して視野が広がった・人と関わることに積極的になった	A				
			生活デザイン科新聞やHP更新など広報活動を積極的に行い、学科の学習活動や生徒の活躍する姿を幅広く発信する。		A				
地域社会への貢献と広報活動・生徒募集の強化	学科の特色を活かした3つのコースのカリキュラム・進路実績を明確に発信し、生徒募集を広くかつ積極的に実施する。			B	A	地域交流や国際交流など学科の特色を活かした取り組みにより、幅広い広報活動と実践的な学びを促進し、生徒の自己有用感が高まった。学科行事や体験授業等に関わる計画・準備の時間と予算の確保が必要である。魅力的な学科の教育実践や学科新聞の発行による中学生や保護者に向けた情報発信と可視化、学区を超えた幅広い生徒募集を継続的に行う。	A	・幅広い広報活動と実践的な学びの促進により、生徒の自己有用感の向上が図ら	
				A					
				B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即した学習指導や進路指導を行うとともに、社会に貢献できる人材を育成していく。 ・学校説明会をはじめ、SNSやHPなどを活用した幅広い広報活動を実践し、少しでも多くの方々に本校の魅力を伝えていく。 ・生徒の基礎学力を定着させるために、ICTを活用した個別最適な授業へと授業改善を行う。 ・いじめの早期発見、早期対応に注力し、「いじめ見逃しゼロ」を目指して生徒が過ごしやすい環境づくりに努める。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A:適切である
	B:概ね適切である
	C:やや適切でない
	D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
現代の教育の中、どの先生も一生懸命取り組まれていると思います。大変だと思いますが、子供たちをよろしく願います	

備
合)

A

中においても過年度及び

出しがなされてい

高く評価できる。

っており、高く評価でき

しい。

してほしい。

利用できる連絡、学習

きることは高く評価でき

れている。

。

